

第17回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時      2005年5月10日（火）10:30～11:10
2. 場 所      中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者      近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員  
                 内閣府  
                 戸谷参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐  
                 社団法人日本原子力産業会議  
                 宅間副会長
4. 議 題
  - （1）前回議事録の確認
  - （2）第38回原産年次大会の結果について（（社）日本原子力産業会議）
  - （3）近藤委員長の海外出張について
  - （4）その他
5. 配布資料
  - 資料1          第38回原産年次大会の結果について
  - 資料2          近藤原子力委員会委員長の海外出張について
  - 資料3          第16回原子力委員会定例会議議事録（案）
  - 資料4          原子力委員会 新計画策定会議（第26回）の開催について
6. 審議事項
  - （1）前回議事録の確認  

事務局作成の資料3の第16回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
  - （2）第38回原産年次大会の結果について（（社）日本原子力産業会議）

標記の件について、宅間副会長より資料1に基づいて説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(近藤委員長) 原産年次大会では、毎年、原子力開発利用に関する内外の取組の状況が紹介され、我が国の状況を相対的に見ることができる。また、特にこの数年、立地地域の方々と原子力関係者の相互理解のあり方について、双方が勉強する非常によい場を用意していただいている。さらに、我が国の原子力開発利用に関わる最新の課題について意見交換が行われている。原子力委員会はこうしたことは極めて重要なことと考えているところ、今年の大会も内容が時宜を得ており、報告や会場でのやりとりも含めて関係者にとって意味のある会合であったと思った。このことに対して、お礼を申し上げたい。

(宅間副会長) 民間として政策や考え方をきちんと言い、議論していく場としての原産年次大会の重要性を今回改めて感じている。さらに今回は、新しく代わられた新潟県知事、柏崎市長にも、産業界あるいは原子力関係者の思いが伝わったのではないかと思う。

(木元委員) 1日目に出席させていただいたが、今までよりも形骸化せず具体的なところでまで踏み込んでいるなという印象を持った。組織の改変など、変わっていく原産会議(日本原子力産業会議)の姿が問われた大会でもあると認識していた。特に、1日目のパネル討論「原子力発電所のある町で、わたしたちは考える！」は生の声が出ていてよかったと思う。

それから、いつも思うことだが、「これだけ成果や結果が出た」というところまではわかるが、「じゃあこれからどうするのか」という部分が見えてこない。今後この結果を生かして具体的にどのような活動をするのか。

(宅間副会長) まだそこまで整理していないが、例えば、2日目のセッション1「原子力発電所の安全と管理を問い直す—『マイプラント意識』確立への課題」では、自主保安を徹底し保安体制を確立するために何が問題かという話が出てきており、これらを政策提言、規制合理化の活動につなげていきたいと考えている。それから、アジアにおける日本の原子力の立場を考え、プラント輸出も含めてどのように国際展開していくか、これも大きな課題として具体的な活動方針をこれから考える必要がある。また、プルサーマルは残念ながら柏崎刈羽原子力発電所では止まった状況であるが、現地に行けば、何が問題であるかなど率直に色々なことがわかってくるので、それらを活用し産業界としてプルサーマルの推進に取り組んでいく

いと考えている。

(木元委員) 例えば、資料1の1ページに、品田刈羽村長の「立地地域と消費地域で安全安心についてギャップがある」というご指摘が書かれているが、「それに対してはこういうアイデアがある」といった具体的な提言が欲しい。そこで、原産会議だけでまとめるのではなく、今回参加された色々な方を含めた組織をもう1度作り、提言をまとめれば、より具体的なものになるのではないかと思う。

(宅間副会長) 重要なアドバイスとして受け止めさせていただく。今までは原産会議の中でまとめて終わっていたが、今後は参加された方のご意見、感じたところを集めたいと思う。

(木元委員) 例えば、1日目にパネリストをされていた歌代さん(「くらしをみつめる…柏桃の輪」代表) ははっきり本音を言われる方なので、こういう方に参加していただくとよいと思う。

(宅間副会長) 今回、原産会議がもっと地元に入ってきて欲しいという声もあったので、積極的に立地地域の方々と産業界の交流、議論の場を作っていきたいと思う。

(齋藤委員長代理) ご説明されたように、色々な意見が出て我々にとっても有用な会議であったと思う。木元委員と全く同じことを申し上げようと思っていたところであるが、ここで提示された問題について、原産会議だけでなく国や自治体がすべきこともあると思うが、箇条書きに整理してできることを実現していくことが大事であると思う。柏崎大会において地元の方から「工場を作ったときに、柏崎市だけでなく長岡市でも5年間電力料金が半額になるので、新しい工場は柏崎市ではなく長岡市に行く。」という不満が述べられた。本件などは原産会議だけで解決できる問題ではないと思うが、国なり県なりと相談して何か工夫が必要ではないかと感じた。

(町委員) ご説明の中で「立地地域からの意見発信」、「地域に支えられつつ地域を支える原子力」といったキーワードがあったが、地域に係る政策は重要であり、原子力委員会でも「立地地域との共生」について議論をしているところである。電源三法交付金等をうまく活用して本当にその地域の役に立つように取り組むことが大事である。例えば、地元の事業や技術育成などが具体的にどのように行われているのかについて、立地地域との意見交換のセッションを年次大会で設けるとよいのではないかと思う。これからの重要なテーマの1つであると思う。

(宅間副会長) これまで原産会議は地域振興については、各電力会社と地域との関係ということで若干引いていたところもあったが、産業界がもっと

出てきてほしいという声が地元から結構あるので、それに答えていきたいと考えている。原産会議は、人を派遣して、地元の産業界の方々の意見を聴き、それをまとめて近々レポートとして発表するが、それによれば「原産会議に、産業界の代表として、地域振興についてもっと相談に乗ってもらいたい。問題等がある場合には、自治体や国に訴える役割をお願いしたい。」といった要望が寄せられており、それらに答えていきたいと考えている。

(町委員) 原産会議は発電だけでなく、放射線利用も取り組んでおり、地域振興の観点からは、放射線利用はあまりお金がかからず、ニーズをうまくつかまえれば、原子力技術の一環として地域振興に結びつけることができると思う。今回は碧海さん(消費生活アドバイザー)が放射線利用の話がされたようだが、年次大会では例年取り上げられていないので、今後は医療や産業利用など生活に密着した放射線利用の話題をもう少し入れてもよいのではないかと思う。

(宅間副会長) 1日目に、新潟大学の田村教授が、発電所の周りの敷地を使って放射線の医学利用や量子測定などの学術拠点を設立したいという希望を語っておられた。

(町委員) あれはまだ構想の段階だと思うが、よい話だったと思う。

(宅間副会長) 地元の大学の方々が、原子力が地元で貢献できることはないかと色々考えて下さっており、我々がそれに協力していくという形もあると思う。

(木元委員) 開催する前に、今回はこういう大会にしたいということをはっきり言うよと思う。

(前田委員) 1日目しか参加していないが、午後のパネルが非常に有意義だったと思う。「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」や「くらしをみつめる…柏桃の輪」の代表の方々など、地域の方々のご意見があり、また、柏崎市防災・原子力安全対策課の課長さんは、色々悩まれたことなどを率直に話された。

それから、今皆さんが議論された話になるが、全国から原子力の関係者が集まり、地域の問題を議論する場合は、原産年次大会以外あまり他にないと思う。地域との関係について原産会議がどう主導的な役割を果たすのかということが、宅間副会長もこれから力を入れていく必要があると言われたが、非常に大きな課題になってきていると思う。

(宅間副会長) ご指摘のとおりだんだんとシフトしてきていると思う。原産会議も当初はどちらかという国の方ばかり見ていたが、これからは、

発電所自身が地域に根付いていくには、電気事業者と地域との関係だけではおさまらず、そこに原産会議がもっと積極的に地域に出ていく必要があると思う。原産会議の地方組織である、各地域の原子力懇談会との協力を取り合うなどして、原子力産業のネットワークを用いて支えていきたいと思う。

### (3) 近藤委員長の海外出張について

標記の件について、戸谷参事官より資料2に基づいて説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(木元委員) 中国の原子力関係者との会談を調整中とのことだが、どのような立場の人と会うのか。

(近藤委員長) 日程が厳しいので確かではないが、CAEA(中国国家原子能機構)の張華祝主任やCNNC(中国核工業集团公司)の方を考えている。

(木元委員) 個人的な感想だが、中国に行った際に、発電所などの現場の人の話と、政府の要人の話にギャップを感じる。政府の計画に従っていくのだろうと思うが、現場の人によっては、今後は特に水力発電を増大させていくと言ったりする。

(近藤委員長) それは日本でも多かれ少なかれあることと思う。だから、色々な立場の人の話を聞くのが大事であり、今回もそのように調整してもらっている。

(町委員) 韓国ではそういった関係者との会談はないのか。

(近藤委員長) 半日しかないので予定していない。ただし、昼食会で新しい政権の枢要部の方と顔をつないでこようと思っている。

### (4) その他

- ・事務局より、5月17日(火)に次回定例会議が開催される旨、報告があった。
- ・事務局より、5月12日(木)に原子力委員会 第26回新計画策定会議が開催される旨、報告があった。